

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
環境技術委員長 坂 本 忠 彦
両団体専務理事 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ (第349回)

日 時 平成30年7月19日(木) 午後1時半～4時

場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、応用ゲノム微生物学の金属資源化への展開

解説 山本兼由法政大学生命科学部教授

3、『環境技術関連ニュース NO. 171』

解説 中島稔科学技術部会長

報 告 去る6月14日開催の第348回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、思うこと」と題して開会挨拶がありました。先週、関東地方は梅雨入り宣言が出た。去る日曜日には台風が日本列島の南から東方向へ通過したが、この時期の台風は通常であれば西へ向かうはずである。これも温暖化の影響によるものか。今年も気象に関しては異常現象が毎月のように起きており、これらと温暖化との影響が何もないと決めつけるのはいかなものかと個人的には考えている。

次に、清原淳平専務理事より、高木直行東京都市大学原子力安全工学科教授の経歴紹介がありました。次に、高木教授より、「原子炉での核変換を応用した核廃棄物処理及び希少元素製造技術」について解説がありました。放射性物質の半減期を短くすることは出来ないが、より半減期の短い物質に変換することはできる。小型高速炉の炉心周辺に、減速材(核分裂で発生する中性子と衝突して中性子のエネルギーを減らすために用いられる)を置き、中性子を吸収させ、炉心部で生成されるよりも速いペースで半減期の短い物質に変換する。ただし、増殖性能は失われ、外部からの燃料供給が必要になる。また、長寿命の核分裂生成物を出さない原発も30年前から研究されていた。ただし、もんじゅなきあと日本には高速炉がなく、ヨウ素などの同位体が生成されるので、燃料として原子炉に戻すと十分な性能が出ないという欠点もある。高速炉を使って中性子に原子を当てれば、水銀から金を造ることも理論上可能だが、現在のところ採算が合わない。高速炉はレンタルで募るとして、価格の安い元素から高価な元素を作り出す方式を検討中である。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.170』の解説がありました。今回は、〇梅の産地として知られる和歌山県田辺市では、以前から大気汚染や酸性雨の影響で梅の生育不良が続いていたが、近年では中国からの越境汚染も加わっているようだ。〇大気中のCO2濃度は観測可能な過去80万年で最高レベルにある。このまま放置すれば、全世界で数十万人の死者が出るかもしれない。〇北極海では、海氷にマイクロプラスチックが過去最悪レベルで含まれている。これを受けてEUでは、使い捨てプラスチック製品を全面禁止、使い捨てプラスチック飲料ボトルを90%回収するなどの策を講じる。〇レアメタルであるモリブデンを蓄積する能力の高い大腸菌の作製。〇異なる有機分子を金属に結合させ、目的の物質だけを高効率につくる触媒の生成、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、7月19日(木)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに〇印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp